



『山口と世界』コモンルーブリック開発 ワークショップ

【趣 旨】

中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』（2012年8月）では、教育プログラム共通の考え方や尺度（「アセスメント・ポリシー」）に則って評価し、その結果をプログラムの改善・進化につなげるという改革サイクルが回る構造を定着させることが必要とされ、その具体的な測定方法を明確化にすることが求められています。

本学では、大学教育学会における課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」との連携により、アクティブ・ラーニング科目『山口と世界』を対象として、新たな学修成果測定の開発を進めています。

本年3月に開催したFDワークショップで提案されたアイデア等を活かしたコモンルーブリック案を提示しながら、授業担当者を中心に、『山口と世界』コモンルーブリック開発の取組を進めたいと思います。

日時

**2014 年
7 月31 日（木）
10:30～ 12:00**

場所

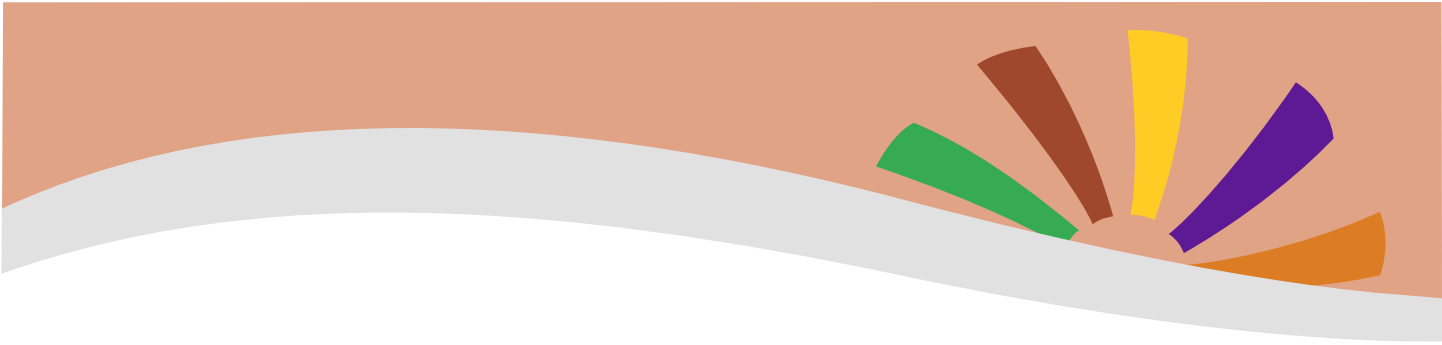
**共通教育棟
2階会議室**

対象

**2014年度『山口と世界』
授業担当者ほか**

【申込方法】 件名「ルーブリックワークショップ申込」とし、「①氏名、②所属・職名、③e-mail」を記入の上、E-mail: ga115@yamaguchi-u.ac.jp（担当:教育支援課教育企画係）あてに、7月22日（火）までに送信願います。

【問合せ先】 大学教育センター准教授 林 透 E-mail: toru-h@yamaguchi-u.ac.jp



【概要】

10:30～10:50 『山口と世界』コモンルーブリック開発の
経緯と現状

※コモンルーブリック案の提示

10:50～11:25 コモンルーブリック案に基づく
* グループディスカッション

11:25～11:55 グループ発表と質疑応答

11:55～12:00 クロージング、今後のスケジュール

全体進行:大学教育機構

大学教育センター 林 透、星野 晋

【用語解説】ルーブリックってなに？

学修評価の基準の作成方法の一つであり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成されます。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難なパフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがあります(中教審答申・用語集より)。